

5 - 4 施 工

1) 鉄筋露出部処理

a . 鉄筋の発錆によるコンクリートの欠損の確認状態・寸法の調査、確認を行う。

b . 研り、除去

コンクリートの欠損部およびひび割れ部の脆弱部分をケレン工具、たがね、サンダー等を用いて研り取り、鉄筋を露出

c . ケレン

鉄筋に生じている錆をワイ

ルで除去する。

d . 清掃

鉄筋の処理の後、周囲のコンクリートを十分に取り清掃する。

ワイヤブラシ等をダスター刷毛、ウエス等を用いて

e . 鉄筋防錆処理

清掃後、鉄筋の周囲部および

鉄筋に防錆材を塗布する。

f . 充填・修復

ポリマーセメントモルタルを用いて充填、表面こてへらで平滑にして修復する。

コンクリート充填、表面こてへらで平滑にして修復する。

2) ひび割れ部自動式低圧注入工

a . 補修範囲の確認

ひび割れの状況を確認し、

b . 清掃

ひび割れに沿って幅 50mm

ワイヤブラシ等で汚れを除去し、清掃する。

c . 注入孔の位置決め

注入孔位置をチョーク等で

注入孔位置を 300mm : 5カ所 / m)

d . 座金の取付およびひび割れ部

注入孔位置(ひび割れが中心)に座金をパテヘラ等で幅 30mm、

座金を取付け、ひび割れ部に沿ってシール材を貼る。

e . エポキシ樹脂の注入

エポキシ樹脂 (JIS A6024) を注入する。

エポキシ樹脂を入れ、座金にセットし、ゴムの圧力に

f . 養生 (約 24 時間)

注入完了後は、注入器具を

除去し、樹脂材が硬化するまで養生する。

g . 仕上げ

注入したエポキシ樹脂材の硬化後、注入器具およびシール材をディスクサンダー、皮スキ等を用いて除去する。

h . 清掃

補修部以外に付着した汚れ等を除去し、清掃する。

見

本

ひび割れ部自動式低圧注入工法



施工手順		使用機材・使用材料
<p>補修範囲の確認</p>	<p>漏れを確認する。</p>	<p>発生しを決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラックスケール ・スケール等
<p>ひび割れ部の補修</p>	<p>ひび割れ部の表面をワイヤーブラシ等で清掃する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワイヤーブラシ ・皮スキ等
<p>注入孔用座金の取付け及びひび割れのシール</p>	<p>注入孔の厚さを2mm程度にし、裏面にシールを貼る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クイックメンダー ・はくりシール ONE
<p>注入用 エポキシ樹脂 計量・混練</p>	<p>主成分を1:1で混合する。</p>	<p>量し、均す。</p>
<p>エポキシ樹脂 シリンダー注入</p>	<p>発熱防止のため、発熱防止剤を注入する。(ゴムの場合は2)</p>	<p>座金にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シリンダーセット ・コニシ(株)ボンド E206

3) 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法

a. 補修範囲の確認

テストマンマー等で、打診し、浮きの状況と範囲を調べてマーキングする。

一般部：9本/m²、指定部（見上げ面）：16本/m²、狭幅部（200以下）：@200mm

b. 穿孔

規定のドリルビット（φ6
5mm程度深く穿孔する。

c. 清掃

孔内にゴムスポイト、エア

d. ピンの挿入

アンカーピンを孔に挿入し
にて先端の開脚部を拡張し

e. エポキシ樹脂注入

グリスポンプ（手動式注）
充填量：25cc（約30g）/

f. 仕上げ

注入口を目立たぬ色のパラ

g. 養生（夏期：15時間、冬

エポキシ樹脂注入後、衝

h. 清掃

注入部以外に付着した汚

4) アンカーピンニング部分エポ

a. 補修範囲の確認

テストマンマー等で、打診

一般部：9本/m²、指定部

b. 穿孔

規定のドリルビット（φ6
5mm程度深く穿孔する。

c. 清掃

孔内にゴムスポイト、エア

d. エポキシ樹脂注入

グリスポンプ（手動式注入器）にて、注入口より徐々に充填する。

充填量：25（約30g）/1カ所

e. ピンの挿入

挿入に先立ち、ステンレスピンのネジ切り部分にエポキシ樹脂を塗布してから、気泡の巻込みに注意して挿入する。

見

本

ート用振動ドリルにてピンの長さより

き込み、切粉等を除去する。

なるまで打ち込み、専用の打ち込み棒

にて、注入口より徐々に充填する。

る。

にする。

調べてマーキングする。

狭幅部（200以下）：@200mm

ート用振動ドリルにてピンの長さより

き込み、切粉等を除去する。

f . 仕上げ

注入口を目立たぬ色のパテ状エポキシ樹脂等で仕上る。

g . 養生（夏期：15 時間、冬期：24 時間）

エポキシ樹脂注入後、衝撃を与えないようにし、養生する。

h . 清掃

注入部以外に付着した汚

見

本